

Nhân hậu Thông minh Khỏe mạnh

やさしく

ニャンハオ

かしこく

トゥオンミン

たくましく

ホエエマイン



丑年

明石 清二

明けましておめでとうございます。

元日には盛大な花火が打ち上げられ、ベトナムの方々から新鮮な気持ちで新年を迎えている様子を垣間見ることができました。新年を迎える時には、いずれの人々も同じ気持ちなのだと思います。旧暦のときには、さらに気持ちが深まっていることでしょう。

ベトナム国の場合には、他国、他地域と比べ、コロナがかなり抑制されていることで国の明るい未来を感じます。未来が明るいと感じられたとき、私たちは堂々と胸を張り、顔を上げ、前を見つめて歩むことができます。正にベトナム国に住まわせてもらっていることで、私たちの気持ちにゆとりがあるといっても過言ではありません。このような気持ちで新年を迎えられましたことに、深く感謝します。

反面、世界中の日本人学校の様子を見ますと、子供たち及び教職員が全員帰国している学校や11月下旬に校長のみが派遣された学校、教員派遣が全く行われていない学校など様相は様々です。コロナ禍の厳しい状況の中で、不本意な生活を余儀なくされている方々を思いますと不憫でなりません。

このことは、日本人学校だけの問題ではなく当然のことながら世界各国の学校の問題です。子供たちの安全と教育を確保するために、コロナに立ち向かう大人の背中を子供たちに見せることが、次世代を担う子供たちへの継承です。公衆衛生の大失敗をどう克服するのか、生活様式をどう変えるのかを一緒に考え行動させることが、ここ数年の課題であり、このことこそ「生きる力」であると考えています。

今年は、「粘り強さ」と「誠実さ」に象徴される丑年。

古来、牛は農作業や物の運搬には貴重な労働力として人間の生活に欠かせない動物です。現にベトナム国では、大きな労働力になっている姿を郊外でよく見かけます。牛は、朝に家を出て日がな一日草を食み、夕方には自分で自宅に戻るとも聞きました。

以前、友人の御祖父様は、「自宅で牛をペットとして飼っている」と聞いたことがあります。名前を呼ぶと縁側までやってきて、御祖父様になでられているそうです。時々、座敷に上がり込み怒られているとも…。

この「実直さ」「穏やかさ」そして「のどかさ」に子育ての本質があるように感じています。

「角を矯めて牛を殺す」ということわざもあります。小さな欠点など誰にでもあること。子供たちのもつ本質的な能力は、誰も分かりません。子供自身も分かりません。ただ、ほんの少し、ほんの少しだけ他の人よりも努力することが苦にならないことが見付ければ、その子は伸びていきます。

教職員一同、今年も精一杯子育てをしてまいります。

どうぞよろしくお願いいたします。



体育館床修理完了・ウォーターサーバー設置完了

懸案となっておりました体育館床を冬季休業中に修理しました。雨期と乾期で調整が必要な工法ですが、この方法ですと向こう20年間、年に2回調整したとしても、全面張り替えよりも廉価です。

各階にウォーターサーバーと常温水のボトルを新設しました。今度は、臭わん!大丈夫!

